

本校出版書籍のご案内

発売日 2016年1月21日



定価 1,944 円（本体 1,800 円＋税）

お申込みは、TEL・FAXまたは E-MAIL にて受け付けています。

送料は、注文者様の方でご負担いただきます。（送料着払）

TEL：0877-48-2694

FAX：0877-48-0292

E-MAIL tokusimain@ed.kagawa-u.ac.jp

住 所：〒762-0024 香川県坂出市府中町綾坂889

香川大学教育学部附属特別支援学校 担当者まで

特別支援教育のための 分かって動けて学び合う 授業デザイン

■監修 藤原 義博・武藏 博文

■編著 香川大学教育学部附属特別支援学校



本書では、私たちがこれまで研究してきた参加を高めるための「授業づくり」について紹介しました。授業改善のための具体的な手順やポイントを整理し、指導者全員が共通の視点をもって授業をデザインしてきたものです。どのようにすれば子どもが目的意識をもって、授業への参加を高めることができるのか？ また、どのように環境を整えておけばよいのか？ そして、個々の子どもにどんな必要な支援を用意すればよいのか？ など、少しでも支援の手掛かりになればという願いを込めて編集しました。

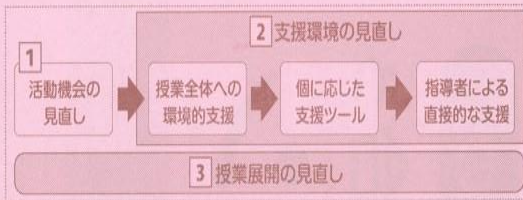
若年の先生方、初めて特別支援学級を担任される先生方にはもちろんのこと、通常の学級を担任される先生方にも、ぜひご一読いただき、これからの実践の一助となれば幸いです。(あとがきより抜粋)

ジアース教育新社



授業デザインの羅針盤

*授業改善は「活動機会の見直し」⇒「支援環境の見直し」の手順で行う。さらに「支援環境の見直し」は「授業全体に関わる環境的支援」⇒「個に応じた支援ツール」⇒「指導者による直接的な支援」の順で検討する。「授業展開の見直し」は適宜行う。



	まずコレ (基本)	つぎコレ (応用)				
活動機会の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の特性や関心に応じて、集団の中で役割を設定しよう ④ 自発的なコミュニケーションを引き出すための状況づくりをしよう ⑤ 自分の思いや願い (WANTS) を表明したり、自己選択・自己決定したりする機会を設定しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ② 児童生徒同士のやり取りや協同した活動を設定しよう ③ 活動の振り返りを行い、多様な評価 (自己評価・相互評価など) を受ける場面を設定しよう ⑥ 習得した知識・技能を他の場面でも活用する機会を積極的に設けよう 				
授業全体に関わる環境的支援	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 活動全体の目的やねらい、見通しを分かりやすく示そう ⑧ 児童生徒が何をすることが分かり、自立的に活動できるための手立てを整えよう ⑨ 児童生徒が活動しやすい動線の配置と取り組みやすい事物の整理をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 活動中での役割分担や協力の仕方などを分かりやすく示そう ⑪ 活動に取り組むためのルールや達成基準を分かりやすく示そう 				
個に応じた支援ツール	<p>支援ツール</p> <table border="1"> <tr> <td>【環境】 支援環境を整える 協働ツール</td> <td>【理解】 自発を促す 手掛かりツール</td> <td>【実行】 実行を助ける 手掛かりツール</td> <td>【意欲】 評価の機会を与える 交換記録ツール</td> </tr> </table>		【環境】 支援環境を整える 協働ツール	【理解】 自発を促す 手掛かりツール	【実行】 実行を助ける 手掛かりツール	【意欲】 評価の機会を与える 交換記録ツール
【環境】 支援環境を整える 協働ツール	【理解】 自発を促す 手掛かりツール	【実行】 実行を助ける 手掛かりツール	【意欲】 評価の機会を与える 交換記録ツール			
支援環境の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 児童生徒が理解でき、自ら使いこなせるツールにしよう ⑬ 興味・関心を取り入れ、能力や特性に応じた扱いやすいツールにしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ⑭ 自ら記録し報告して、振り返り・評価や説明に使えるツールにしよう ⑮ 他の場面で活用したり、支援を得るための共通理解を図ったりするツールにしよう 				
指導者による直接的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ⑯ 児童生徒が活動の見通しをもてるようにしよう ⑰ 児童生徒が手掛かりや支援ツールに気づき、使い方を学べるように支援しよう ⑱ 児童生徒の活動のモデルとなるように、指導者が手本を示そう ⑲ 活動のねらいに合わせて指導者の位置取りを見直そう 	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 児童生徒が考えたり思考を深めたりするような助言や発問をしよう ⑳ 評価のポイントや基準が分かるように伝えよう ㉑ 児童生徒の自発的な行動を引き出すための働き掛けをしよう 				
授業展開の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ㉒ 学習活動同士につながりをもたせよう 	<ul style="list-style-type: none"> ㉒ 学習への目的意識をもてるように導入や振り返りを工夫しよう 				

■授業への「参加」を高める

3つの視点：
分かる・動ける・学び合う

1. 授業への「参加」を高める
2. 「参加」を高める3つの視点
3. 分かる (目的意識)
4. 動ける (遂行の活用)
5. 学び合う (協同)

「参加」を高める3つの視点

参加の高い授業とは、児童生徒が「分かって (目的意識)」「動けて (遂行・活用)」「学び合う (協同)」姿が現れる授業である。3つの視点を大切にしながら授業をつくることで、児童生徒の参加を高め、主体的な社会参加への資質を養うことができる。と考える。

「参加」を高める3つの視点

分かる 「目的意識」

- ・今、することが分かる
- ・することの流れが分かる
- ・授業の目標 (ねらい) が分かる
- ・単元の目標 (ねらい) が分かる
- ・生活とのつながり (学習内容の意義・価値) が分かる

動ける 「遂行・活用」

- ・指導者の手助けがあればできる
- ・手掛かりを確認しながら一人でできる
- ・ポイントを意識してよりよくできる (例: 早く、たくさん、正確に)
- ・場面が変わってもできる
- ・状況に合わせて適切な方法を考えてできる

学び合う 「協同」

- ・集団の中で役割を果たす (固定→状況に応じて)
- ・役割を介してやり取りする
- ・学習の成果や結果について互いに評価し合う
- ・自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする
- ・課題解決に向けて話し合う

■本書は、この10年あまりの間、香川大学教育学部附属特別支援学校が取り組んできたことの集成です!!

特別支援教育のための 分かって動けて学び合う授業デザイン

まえがき 特別支援教育の授業をデザインする

第1章 詳説：分かって動けて学び合う授業づくりとは

- 第1節 分かって動けて学び合う授業づくり
- 第2節 学びを促す個に応じた支援の在り方

第2章 分かって動けて学び合う授業をデザインする

- 第1節 「WANTS」の表明から主体的参加をめざした授業の実現
- 第2節 授業への「参加」を高める3つの視点：
分かる・動ける・学び合う
- 第3節 授業をデザインする3つの工夫：
活動機会・支援環境・授業展開
- 第4節 授業改善の進め方：
「授業デザインの羅針盤」と「授業改善のアイデア事例集」
活動機会の見直し
支援環境の見直し
授業展開の見直し

第3章 授業改善の過程：学び合う国語・算数数学の指導

- 実践1 小学部 国語科
「動きの言葉～やってみようチャンネル～」
- 実践2 小学部 算数科「20より 大きいかずを かぞえよう」
- 実践3 中学部 国語科
「経験したことを伝えよう～思い出カード作り～」
- 実践4 中学部 数学科
「長さをはかろう～『体のものさし』を使って～」
- 実践5 中学部 数学科「およその金額で考えて買い物しよう！

～ICカードを使って～

- 実践6 高等部 職業国語科「面接で自己紹介をしよう」
- 実践7 高等部 職業数学科
「時間を意識しよう～ぴったりで終わろう～」

第4章 授業改善の過程：協同から自立をめざす力の育成

- 実践8 小学部 音楽科
「楽しいリズム『ぶんぶんぶん』『手をたたきましょう!』」
- 実践9 小学部低学年 図画工作科「絵描き歌で描いてみよう」
- 実践10 高等部 保健体育科「キンボール～レッツ オムニキン!～」
- 実践11 小学部 日常生活の指導（チャレンジタイム・帰りの会）
「自分の力で課題や役割にレッツチャレンジ!」
- 実践12 中学部 パワーアップタイム
「みんなで作ろう!～もこもこケーキ～」
- 実践13 高等部 ライフスキル
「ライフスキル～将来に向けてできることを増やそう～」

- コラム1 ICT機器を活用する
- コラム2 「根拠に基づく教育実践」を実現するために
- コラム3 インフォーマル算数と発達促進
- コラム4 学校教育と合理的配慮
- コラム5 合わせた指導，学校設定教科の工夫
- コラム6 自ら取り組み，達成を喜び，肯定感を育てる

あとがき

執筆者一覧
